

# 国際日本学部 2023 年度夏期 海外ボランティア・プログラム

## 参加報告書（インドネシア・ブディルフル大学）

### ① 本プログラム参加のきっかけ・目的について（200 字以上）

中学生のころに SNS をきっかけでロヒンギャ難民について知り、東南アジア地域に対して興味を持つようになった。インドネシアはミャンマーとは異なる国であるためロヒンギャ問題について関わりはないが東南アジアを訪れる良い機会だと考え今回のプログラムに参加することを決めた。また、旅行として東南アジアを訪れることは今後も想定されるが、ボランティア活動を行うことは大学のプログラムで行う以外今後することがないだろうと考え参加を決めた。

### ② プログラム内容について（各項目 200 字以上）

#### 1. ボランティア活動・ワークショップについて

お弁当作り・配布について。週に一回インドネシア料理を作り、大学の前で車に乗っている人やバイクを運転している人に対して配布した。インドネシアの野菜は日本と共通のものもあるが、サイズが異なっていること、日本では使用頻度の少ないものがメインで使われることから国による違いを発見できた。ワークショップについて。お互いに第一言語が英語でないなか、日本文化を伝えることやコミュニケーションをとることが必要なためボディランゲージやジェスチャーの重要性を再認識した。

#### 2. 授業（インドネシアの歴史や文化、インドネシア語）について

インドネシア語の授業では座学よりも話すことがメインで教えられ、ただ授業を受けるという形より実践形式がメインで主体性をもって楽しく学ぶことができた。授業は主にダンス、歌、言語の三つで、インドネシアの歴史や文化を重点的に学ぶ授業はなかった。しかし、インドネシアの博物館や観光地を巡る際や移動時間中にボランティアとして参加しているインドネシアの方々から歴史や文化について学ぶこと、実際にインドネシアの伝統衣装を着用して伝統舞踊を踊る機会が設けられており、インドネシア文化を体験する機会が多く存在した。

#### 3. フィールドトリップ（バンドンツアー）について

バンドンではバリやジャワなどの地域ごとに異なる伝統衣装を着た子供たちの舞踊をインドネシア楽器による演奏のもとで鑑賞した。最後には子供たちが観客を巻き込んで一緒に踊るため、文化を見て学ぶだけでなく、体験して学ぶことができた。また、バンドンのメインストリートは観光名所となっており、ドイツといった他国から占領を受けていた名残を残したカフェなど様々な飲食店が並んでいた。バンドンのなかでも私たちが訪れたエリアは観光地として有名なため、インドネシア独自の雰囲気が残っておりジャカルタよりもインドネシアらしさがあり外国人が楽しみやすいように感じた。

### ③ 本プログラムを終えての学習成果・感想（200 字以上）

インドネシアは気候、文化、食生活、宗教などが日本とはあり方が大きく異なる。そのため、インドネシア

で快適に生活を送ろうとするならば日本の考え方をインドネシアに持ち込むのではなく、インドネシアの考え方に自分を合わせ、馴染もうとする努力が重要であることを学んだ。また、対人関係に関してはジェスチャー、ボディランゲージで意思疎通が図れるため、現地の人と仲良くなるには積極的に交流しようと意思を見せること笑顔であることが大切だと感じた。

<b>④ 現地での生活等について（今後参加する学生へのアドバイス含む）</b>
<b>1. 滞在先の治安・キャンパス・施設について</b>
窃盗など犯罪行為に巻き込まれた学生はいなかったが、日本の感覚で貴重品をポケットに入れていると現地の人から注意されるため、日本での生活よりは貴重品の扱いに気を付ける必要がある。寮のIHの火力が弱いためキッチンで加熱調理することがほとんど不可能である。
<b>2. 食事について</b>
油の使用量が多いこと、味付けが甘いか辛いかわるが異なることが多いこと。サラダ、そうめんや冷麺など冷たくさっぱりしたものが少ないため、胃が弱っていく可能性がある。イスラム教が国民の大半を占めるため、豚肉を食べる機会がほとんどない。日本よりも白米を食べる機会が多く、マックやケンタッキーでも白米とチキンが出てくる。
<b>3. 交通手段について</b>
電車は日本よりもきれいであり、駅は地下鉄のような形式である。しかし、ネットで配車できるタクシーやバイクが安いこと、複数人で移動する際は配車アプリを使う方が電車を使うよりも安く利便性が高い。
<b>4. 通信環境について</b>
生活地域がジャカルタがメインであるため、格安SIMを使用しても通信が途絶えることはほとんどない。寮の2階に部屋が当てられると場所によってはWi-Fiが繋がらないためギガを使用しなければならない。
<b>5. 買い物事情について</b>
ほとんどクレジットカードが使えるため、ルピアにはあまり換金する必要はない。物価が安いことや朝昼の食事が支給されることから4万円をルピアに換金すればマツパやネイル代、お土産代も込みで三週間現金のみで生活できた。
<b>6. 医療事情について</b>
健康であったためわからない。
<b>7. その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。</b>
必ず一回は下痢や便秘になるため整腸剤などを持っていくことが必須である。飲み合わせで併用してはいけない薬などがあるため確認してから持っていく必要がある。虫やゴキブリに寛容である心が必要である。

以上